

(1) 学習目標—自己紹介と日常の挨拶

学習項目	教材
<p>I はじめまして (名前) です _____ どうぞよろしく (お願いします)</p>	<p>I—1</p>
<p>(国名) から 来ました _____</p>	<p>I—2 I—3</p>
<p>II お名前は? - (名前) です _____</p> <p>* (名前) さん * はい いいえ</p>	<p>II—1</p>
<p>III おはようございます _____ こんにちは こんばんは</p>	<p>III—1</p>
<p>IV さようなら _____</p>	<p>IV—1</p>
<p>ありがとうございます— いいえ _____</p>	<p>IV—2</p>
<p>すみません はい _____</p>	<p>IV—3</p>
<p>いいえ _____</p>	<p>IV—4</p>
<p>V 1~10 _____</p>	<p>数字カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名札 教師用 生徒用 ・?マーク ・プレゼントの包み

(2) 学習目標—物の名前を知る：注文ができる

学習項目	教材
<p>I これは_____です それは あれは</p> <p>これは_____ですか それは あれは</p>	<p>身の回りで集めやすい物 ノート、鉛筆、本、鍵、ボールペン、 かさなど</p>
<p>* はい、_____です いいえ、_____じゃありません</p> <p>II これは 何ですか _____ それは あれは</p>	<p>II—1 II—2 II—3</p>
<p>* そうですか (あいずち) * 分かりません _____</p>	<p>(2)</p>
<p>III コーヒー お願いします _____ これ 伊東駅</p>	<p>III—1</p>
<p>* AとB</p>	<p>数字カード</p>
<p>IV 10～100 _____</p>	<p>メニュー</p>

(3) 学習目標—場所をきく：値段をきく

学習項目	教材
<p>I _____は どこですか</p> <p>ここ (こちら) です _____</p> <p>そこ (そちら) です</p> <p>あそこ (あちら) です</p> <p>*地図、お願いします (相手の説明が複雑で分からないとき)</p>	<p>(2) で使用した身の回りの物： 鉛筆、鍵など</p> <p>I—1</p>
<p>II 1～10階 _____</p> <p>*ね (確認)</p> <p>*地下いっかい</p>	<p>II—1</p>
<p>III 100～1000 _____</p>	<p>数字カード</p>
<p>IV これは いくらですか _____</p> <p>それは</p> <p>あれは</p>	<p>教材用紙幣・コイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊東市の地図 ・世界地図 ・日本地図 ・スーパーのチラシ

(4) 学習目標—買い物をする

学習項目	教材
<p>I 1000～10000～100000 _____</p>	<p>数字カード 家電メーカーの チラシ</p>
<p>II _____の_____ ソニーのテレビ 日本の車 カメラの本 *～さんの本</p>	
<p>III _____、ありますか _____ *見せてください *ください</p>	<p>III—1</p>
<p>IV 大きいです _____ 小さいです</p>	<p>IV—1</p>
<p>高いです _____ 安いです</p>	<p>IV—2</p>
<p>大きいのか、ありますか _____ 小さいのか、ありますか 安いのか、ありますか</p>	<p>IV—3</p>
<p>*きれいです、おいしいです _____ *赤い、青い、白い、黒い、黄色いです _____</p>	<p>IV—4、IV—5 IV—5</p>
	<p>・大きいセーター 高い靴</p>

(1)手順

- I ① 初対面であるという状況を利用して、初対面の挨拶、自己紹介をまず導入する。

教師が「はじめまして。(なまえ)です。どうぞよろしく(お願いします)」とゆっくり 2,3 回繰り返して言う。生徒が興味を持ったところで、教師自身の名札を指して、「(なまえ)です」と数回発話する。それから、生徒の名札(この時点では名前が書き入れてなくてもよい)を指差して、名前を言えるのを待つ。名前が言えたら、絵カードを見せて、初対面の挨拶であることを確認。「はじめまして。どうぞよろしく(お願いします)」を紹介して、すらすら言えるようになるまで練習する。飽きないように一文ずつ、或いは音をばらしたりしてとにかく発話。「お願いします」をつけると長くなるので、生徒の能力によるが、よほど無理でない限り、覚えることを目標にする。仕上げには動作(おじぎ)も入れて、完成させる。

- ② ①に出身「～から来ました」を加える。絵カードを見せて、各自の出身国を言いながら練習。本人に自分の国を言わせる。「はじめまして。(名前)です。(国名)から来ました。どうぞよろしく(お願いします)。」の挨拶は大勢の前で自己紹介をする形とする。

- II ① 「お名前は?」「お国は?」の質問に答える練習。名札に?の紙を貼る。

教師は「お名前は?」と言いながら、名札を指す。勘のいい生徒なら自分の名前を言う。分からない場合は、教師が二役、質問と答え、両方発話して分からせる。分かったところで生徒の方から教師へ質問。次に名前、国の違う人物を集めた絵カードで、練習する。「お国は?」に対して、「～です」「～から来ました」どちらでもよい。

- ② 人の名前に付ける「～さん」を紹介。自分の名前にはつけないことを押さえる。教師が自分を「さん」無しで、生徒を含めて周りの人を「さん」付けで呼ぶと分かる。生徒にも練習させる。

- ③ 「～さんですか」を使い、ここで「はい、～です」「いいえ、～です」を入れ、「はい」「いいえ」を紹介する。

- III 日常挨拶の絵カードを使い、繰り返し練習する。「すみません」は相手の注意を引く、謝罪するの二種類の絵を用意。また、質問するとき、「すみません」で始めることを注意する。II に返って、改めて「すみません、お名前は?」と聞けるようにもっていく。絵カードを見て発話させるばかりでなく、対話化する工夫が必要。(たとえば、プレゼントを贈る設定で、A:どうぞ。B:ありがとうございます。A:いいえ。)

- IV 数字カードを用意。定着を図るために、順番を崩して言わせたり、カルタの要領で教師が言う数字を取らせたりする。

(2)手順

(前回の復習:クラスの前で自己紹介をする、クラスの人に名前や国をきく)

- I 教師の前に鉛筆、ノート、本など集めやすい実物を 5、6 個おく。指差ししながら、「えんぴつ」、「ノート」、「ほん」と教師が発話し、生徒も真似して発話する。自由に言えるようになるまで繰り返す。次にその中のものを教師と生徒それぞれの側におく。あるいは手に持つ。教師は自分の側のものを指して「これは_____です」と言い、生徒の側のものをさして、「それは_____です」、双方から遠いものを指して「あれはテレビです」とゆっくり言う。これ、それ、あれが意識できたら、生徒もモノログで発話。双方のものを変えながら滑らかに発話できるまで。

① 次に はい/いいえ質問文に進む。

{	教師:これは_____ですか。	{	教師:それは_____ですか。	{	教師:あれは_____ですか。
	生徒:はい、_____です。		生徒:はい、_____です。		生徒:はい、_____です。

教師と生徒を入れ替えて、もう一度練習。

次に { 教師:これは_____ですか。

{ 生徒: いいえ、正答です。(「いいえ、誤答じゃありません。」は余裕があれば教える。)

「こ」、「そ」、「あ」について、練習する。パートの交替も。

② { 教師:これは本ですか。(未習の辞書を見せる)

{ 生徒:いいえ。

{ 教師:何ですか。これは何ですか。これは辞書です。(ゆっくり発話。「何」を印象づける。辞書の上に?マークの紙を貼ってもよい。)

- ③ 生徒に「これは何ですか」を使って、質問をさせ身の回りの物の名前を知るようにさせる。

④

- II 食材の絵を見せて、「それは何ですか」を使って質問させ、食材の名前の定着を図る。ここでは自分の食べるものの名前、材料を知って注文する。
絵カードを見ながら、ゆっくり会話の練習をする。

{ ウェイトレス: いらっしゃいませ。メニューです。

{ 客 : これは何ですか。

{ ウェイトレス: とんかつです。

{ 客 : 肉ですか。

{ ウェイトレス: はい。

{ 客 : これ、お願いします。

- III 「お願いします」は相手に行動を依頼する表現で、便利である。

電話の呼び出し「~さん、お願いします」、署名を頼む「お名前、お願いします」など、

- IV 数字カードを使う

(3) 手順

(前回の復習:物の名前を聞く、数字の定着)

I さりげなく教師の鉛筆などを本の下などに紛れ込ませておく。「鉛筆、鉛筆」と言いながら、探す振り。生徒が探し物と理解した時点で「鉛筆はどこですか」を発話。「どこですか」をゆっくり繰り返しながら、なおも探す。そして「あっ、ここです」と発話して見つけ導入を終える。改めて相手に近いもの、自分に近いものを区別して並べ、

教師: _____ は 这里です。

那里です。

あ那里です。(双方から遠いもの)

生徒にも三つの文を発話させる。こ、そ、あの位置関係を理解したら、はい/いいえ質問文を使って練習をして、定着を図る。次に、

教師: _____ はここですか。

生徒: いいえ。

教師: _____ はどこですか。

「_____はどこですか」の練習に移る。まず、諸施設の名前を見せて覚えさせる。一通り、置き換え練習をする。

A: すみません。 _____ はどこですか。

B: あ那里です。

A: ありがとうございます。

B: いいえ。

A: すみません。はどこですか。

B: (複雑な説明)

A: すみません。分かりません。

地図、お願いします。

練習は単調になりがちなので、①伊東市の地図を用意。諸施設(銀行、駅など)の所在場所を質問させる。②世界地図を用意。生徒の国、出身都市の位置を質問する③日本地図を用意。伊東、大阪、東京などの所在地を質問させる—のような工夫がある。

II デパートの中で自分の買いたいものの所在地に行く練習。まず、物の名前を知らなければならぬ。前回の復習をかねる。次に、会話へ。

A: すみません。 _____ はどこですか。

B: _____ 階です。

A: _____ 階ですね。ありがとうございます。

III 数字カードを使う。

IV コイン・お札を見せて、円を導入。お金に?マークの紙を貼って、「いくらですか」を導入。スーパーのチラシなどを用意して物価を実感させるのもよい。会話としては、

A: _____ はいくらですか。

B: _____ 円です。

A: _____ 円ですね。

B: はい。

(4)手順

- I 数字カードを使って、定着を図る。3回までの数字もあわせて、位取りが正確にできるか、確認する。家電の広告チラシ等を使って「いくらですか」と質問をし、いくらか、数字を読ませてみる。
- II Iのチラシを利用して、メーカーの違いに気づかせ、各メーカーのテレビ(ソニーのテレビ)、各メーカーのカメラ(ニコンのカメラ)の言い方を導入する。各国のもの(フィリピンのバナナ)、内容のもの(カメラの本)も紹九生徒の持ち物に注目して、「それは日本のボールペンですか」「セイコーの時計ですか」など、質問する。(疑問詞疑問文→どのテレビ、なんの本→に持っていったら上出来だが、生徒を見て。欲張らないこと)チラシを見比べて、「ソニーのテレビは安いです、(高いです)」とIVの形容詞を軽く導入しておくのもよい。
- III 机の上にあるもの、室内にあるものを取り上げて「ノート、あります」、「本、あります」、「テレビ、あります」などと導入。次に机の上のものを消していく(机の下に隠す)、あるいは室内にないと了解できるもの(ワインなど)を使い、「～、ありません」も導入して、存在、非存在を言うと分からせる。

①はいいいえ質問文の練習

教師:～、ありますか → 生徒:はい、あります。 → 教師:どこですか → 生徒:あそこです。

生徒:いいえ、ありません → 教師:そうですか。

③ スーパーでの買い物の会話

客:ワイン、ありますか。

店員:はい、あります。

客:どこですか。

店員:あそこです。

客:ありがとう。

③ 写真やでの買い物の会話

*絵の流れのとおりに対話練習をする。

「見せてください」「ください」が初出。

生徒の持ち物を見せてもらい、「みせてください」

を、「ください」は「」お願いします」と同じ

と紹介。

- IV Iで軽く紹介した形容詞、高い、安い、に加えて、大きい、小さいを紹介する。ここで形容詞に興味を持たせ、おいしい、きれいも紹介するのもよい。簡単な自分の感想が言える。また色の形容詞(赤い、白い、黒い、青い、黄色い)も買い物の際、必要かもしれない。
- 会話は絵にしたがって、練習する。セーターを大きすぎるシャツや靴などに変え、変化をもたせる。(大きい、ありますか。小さい、ありますか。安い、ありますか。)